

薔薇便り

No.259

2024年 10・11・12月号



春のツアー“錦町オープンガーデン”

目次

事務局だより	1~3
秋のばら展のおしらせ	4
九州ばらまつりのおしらせ	5
ばら会と私	6
花庭訪問	7
技術指導部講習の内容	8~9
バラの無農薬栽培について	10~15
病害虫防除について	16~19
土づくりについて	20~21
鉢植え用土比較その後	22~23
月々の手入れ	24~25
編集後記	26



事務局だより



令和6年度 第5回ばら教室

日時：12月1日（日）13時30分～15時30分頃まで

場所：熊本市動植物園 緑の相談所2階 講習室

熊本市東区健軍5-14-2 TEL096-368-7321

※植物園入り口から入らずに左の緑の相談所入口から入って2階です。

入園料は不要です。駐車場は駐車料200円が必要です。

講師：正村 正輝

内容：土づくり、基肥、冬の剪定、その他

【注意】ばら教室にはお配りしています「ばらの手入れ」をお持ちください。
新入会員の方で「ばらの手入れ」をお持ちでない方には会場でお渡しします。

●動植物園「緑の相談所」



令和6年度 第6回ばら教室（剪定教室・接木教室）

日時：2025年 1月26日（日）

剪定教室 10時～12時

熊本市動植物園 バラ園

接ぎ木教室 13時30分～15時30分頃まで

熊本市動植物園 緑の相談所2階 講習室

【注意】接ぎ木教室の台木は本号に同封の「連絡はがき」で事前注文になっています。



ベラボンの注文受付

ベラボンとは、ヤシの実のスポンジ繊維を細かく切断して、あく抜きをした園芸資材です。ヤシの実の繊維は亀の子タワシに使用されていて腐りにくい繊維です。そのヤシの実の繊維を加工した資材で、通気性、保水性に優れています。

J A熊本うきグリーンセンター宇土に注文しますが、業務用100リットル袋を4袋以上注文しないと送料が掛かりますので、熊本ばら会で共同購入します。

現在100リットル1袋4100円ほどですが価格は変動します。

ご希望の方は本号に同封の「連絡はがき」の通信欄に記入頂くか、Eメールや熊本ばら会LINE公式アカウントでお知らせ下さい。

4袋以上の注文が集まってからの発注となりますので、お渡しできるまで日数が掛かりますことをご承知ください。ばら教室でお渡し予定です。



Mサイズ(5ミリ)



ベラボンと従来用土の生育比較

ベラボン

従来用土



石灰硫黄合剤の注文受付

石灰硫黄合剤は、越冬する害虫やダニの駆除、黒星病やうどんこ病の予防、剪定した枝先の消毒などに使用するものです。以前は冬になると500mLボトルがホームセンターに山積みで売られていました。価格も安くて冬の定番農薬でした。

ところが、使用目的以外に使用する者が現れて500mLボトルの販売が中止されました。今では入手しにくい農薬になってしまいました。JAでも通常は置いていません。そこで、共同購入して2Lペットボトルに小分けしてお渡しすることにしました。価格は2Lボトル1本500円(予定)です。ばら教室でお渡し予定です。

ご希望の方は本号に同封の「連絡はがき」の通信欄に記入頂くか、Eメールや熊本ばら会LINE公式アカウントでお知らせ下さい。

使い方は、鉢植えは10倍くらいに希釈してハケで枝や株元に塗ります。

庭植えは30倍~50倍に希釈してジョウロにかけてもよいでしょう。





ローズカレンダーのご案内

日本ばら会2025年ローズカレンダーの注文を受け付けます。

- 販売価格 ￥1,000- (日本ばら会 会員価格での提供です)
- 注 文 本号に同封の「連絡はがき」をお願いします。
- お 渡 し 秋のばら展会場と12月1日のばら教室で代金と引き換えでお渡しします。尚、詳細は本号に同封の案内文書でご確認ください。



九州ばらまつり観覧ツアーのご案内

- 日 時 11月2日(土) 出発9時 帰着17時 ※詳細は参加者へ連絡します。
- 参加申込 本号に同封の「連絡はがき」をお願いします。



懇親会のご案内

昨年秋に開催しました懇親会が盛況でしたので今年も開催します。
くつろいだ場所でばら談議に花を咲かせましょう。

- 日 時 11月17日(日) 11時30分～14時30分
- 会 場 中央区下通「ケルンよしもと」 ※詳細は参加者へ連絡します。
- 参加申込 本号に同封の「連絡はがき」をお願いします。



来年度ツアーの参加意向確認

ホテルや交通機関を計画するため、現時点での参加意向を確認します。
本号に同封の「連絡はがき」に参加したいツアーと人数をご記入ください。
正式申込は来年3月に予定していますが、参加者が多くて定員を超える場合は、今回参加意向をされた方が優先となりますのでご承知ください。
尚、ツアーの内容は会報同封の案内文書でご確認ください。

【ツアー1】長崎・長崎ばら会春のばら展とバラ園ほか観光
2025年 5月11日(日)～5月12日(月)

【ツアー2】世界バラ会議・福山大会「Rose Expo FUKUYAMA 2025」とバラ園めぐり
2025年 5月17日(土)～5月19日(月)

【ツアー3】山梨・姫野ばら園八ヶ岳農場とバラ園めぐり
2025年 5月31日(土)～6月2日(月)



第118回 秋のばら展のおしらせ

- 竹工芸コラボ -



今回は「竹工芸」とのコラボレーション展示です。竹籠にばらを生けて皆様に竹の美とばらの美の競演を堪能していただければと思います。

会員の皆様には展示のご協力をお願い致します。

【日時】 11月1日（金）～3日（日）
10時～19時30分（3日は17時に閉場）

【会場】 鶴屋百貨店 東館8階 「ふれあいギャラリー」

【搬入】 10月31日（木）：14時00分～17時頃まで（展示準備）
11月 1日（金）： 8時00分～9時50分（飾り付け）
2日（土）： 9時00分～9時50分 //
3日（日）： 9時00分～9時50分 //

【搬出】 11月 3日（日）：17時00分～18時30分

開店前の入場は、鶴屋東館裏口（鶴屋パーキング側の入口）の守衛所に熊本ばら会と申し出て、入館名簿に記入し、名札をもらって、業務用エレベーターで8階へお上がりください。

会場へはエレベーターから出て左前方奥の通路からです。

【展示】 展示・飾り付けは開店10分前（9時50分）までにお願いします。

【内容】

- ① 会員による切り花の展示
- ② 会員による鉢植えの展示
- ③ 会員によるフラワーアレンジの展示
- ④ 特別展示 竹籠にばらを生けて展示します。
- ⑤ 来場者アンケート



アンケートを書いて頂いた方にくじ引きでバラ苗等をプレゼントします。

【お願い】

- ☆ 切り花1本でもご遠慮なくお持ち下さい。
- ☆ 展示準備や撤収など皆様のご協力を必要としています。
- ☆ 展示作業は必ず開店前に終わらせてください。
- ☆ 鉢植えの展示は10号プラスチック鉢までです。
- ☆ スタンド仕立てなどは床からの高さ180センチまでです。

“九州ばらまつり”のおしらせ

九州ばらまつりは、九州ばら懇話会（福岡バラ会、佐賀バラ会、佐世保バラ会、熊本ばら会）のばら展で、毎年秋に福岡で開催されます。

コンテストも行われ全国トップクラスの花がそろいます。熊本ばら会ではコンテストを行っていませんが、佐藤前会長や深野顧問はコンテストで一等を何度も取られています。観覧ツアーを予定していますので是非ご参加ください。

【期日】 11月2日（土）

【場所】 福岡市植物園 ポタニカルライフスクエア

【コンテスト種目】

- HT ①一輪花 ②二輪組花 ③三輪組花 ④五輪組花
 ⑤新人一輪花 ⑥新人二輪花
- オープン ⑦ミニチュア盛花 ⑧フロリバンダ盛花(3枝)

【審査・表彰】 審査開始：12時～ 表彰式：15時～

【出品花の規定】

- 1 出品花の受付は12時までとする。(時間厳守)
- 2 一輪花は5枚葉が3枚以上(多い方が良い)花枝にあること。
二輪花、三輪花、五輪花の場合は五枚葉の規制はない。
- 3 一輪花の花枝の長さは花首から花器の口まで50cm以下とする。
二輪花、三輪花、五輪花の場合はその一番長い花枝に適用される。
- 4 品種名が正確であること。

【受賞規定】

①～⑥までの種目で、複数種目が1等賞に該当するときは、高位の種目順にしたがって1等賞とする。他の種目は推薦とし、次点者を順次くりあげる。

新人の部で出品して1等を3回とれば一般に昇格する。

過去の種目①～④で1等賞を取ったことがある人は新人の部に出品できない。

※コンテストに参加されたい方は会報に同封の連絡はがきの通信欄で事務局へお知らせ下さい。熊本ばら会でコンテスト出品のサポートをします。



コンテストの様子

ばら会と私

No.44 荒牧 久利

去年の5月鶴屋で開催された春のばら展に行き入会しました阿蘇高森の荒牧です。会員の方々の展示されたバラに感動し、自分でも栽培したいと思いました。3か月に1回発行の薔薇だよりに案内されている福島先生の栽培技術指導に顔を出すようになりました。

家内がバラが好きで、6年前に鹿屋のバラ園に行ったのがきっかけで各地のバラ園巡りを始めました。

元々農家だったので作物作りのノウハウは分かっているつもりでしたが、栽培技術指導講習会に参加して、薔薇を綺麗に咲かせる為には肥培管理や剪定など年間を通して努力が必要であること、作物と同じでしっかり観察し手を入れたら必ず応えてくれるという事が良く解りました。

また、今まで気にも留めていなかった「薔薇」の漢字がやたら難しいのも再確認しました。

後期高齢者になり趣味としてバラ作りに挑戦したいと思っています。

この会に入会して、春と秋のばら展、ばら園巡り、オープンガーデン等交流の場があり、会員の方々と有意義に過ごすことが出来ています。

今後も技術指導講習会やばら教室に参加して技術や心を磨き、ばら会や私の地域に貢献出来たら幸いです。

それと同時に、薔薇の漢字がサッと書けるようにー（笑い）



かていほうもん 花庭訪問

今回は南区にお住いの曾我俊恵さん・白木蓮子さんのお宅に伺わせて頂きました。予めメールで地図を送って頂いていたので迷うことなく無事到着。

車から降りると、後方でコツンコツンと音がします。「凄—い!!」啞然です。曾我さんのお母様、家族会員で 95 歳になられる白木蓮子さんが諸々の用具を使いこなしながら除草作業をされていました。毎日という事ではなさそうですが「今日はやる気スイッチが入ったようです」とニコニコしながら曾我さんは手を貸していらっしやいます。

周りには、白に近い優しいピンクの芍薬が咲き、それがお母様と重なりなんとも柔らかい雰囲気にも包まれていました。

曾我さんの案内によりバラ園の方へ。塀続きの大きなアーチの右手には、丁度見頃を迎えた抜群の香りを放つナエマが待っていてくれました。

アーチ左手下段につるサマースノーと並んで黄色のティージングジョージア、上段にはマダムアルフレッドキヤルエールが先ほどまで降った雨に濡れながらも良い具合に枝垂れています。

中央奥にローズピンクのゼフィリーヌドリュアンが、今日の主演は私と言わんばかりに花びらを外に巻きながら見事に満開です。他に 10 数品種のバラと、クレマチスやハナシノブ等の草花が庭の魅力を引き立てています。

ご本人曰く「雑草と共生する自由奔放なお多福ちゃん（猫）の庭」だそうです。

リビングからは、樹々の向こうにあるバラエリアが静かに眺められ、とても落ち着きます。この景観は曾我さんのご家族に対する思いやりと受け止めました。

「バラは私の思いのままに育てたい」そうおっしゃる曾我さんの気持ちがいっぱい詰まった庭でした。

今年のバラの出来は今までとは大きな差があったとか。施肥の材料を変えてみられたようです。生協で取り寄せられたものを使用。とても効果があったとお話をして下さいました。自分なりに試してみることも大切ですね。

バラ作りを始められたきっかけを伺うと、親以上に躑や可愛がって下さった方が深紅のバラが大好きだったこと。又、京阪園芸ローズソムリエの小山内 健さんとの出会いでバラを育てる導きがあったことだそうです。

バラとの繋がり、素敵なお話ですね。

花庭訪問はバラを見せて頂くのは勿論ですが、あんな話、そんな話、とっておきの話を皆さんして下さいます。とても楽しい時間です。

さて、次はどなたのお宅にお邪魔しましょうか・・・



ナエマ

文 やじきた（取材 5 月）



技術指導部講習の内容



通常のばら教室とは別に、更に進んだ栽培技術を実践するための、技術指導部講習を行っています。技術指導部の福島康宏部長宅で以下の日程で実習を行いました。

第2回講習会（7月 7日）：秋の花に向けた夏の強剪定

第3回講習会（7月 28日）：第1回ソフトピンチ（8月は福島部長がピンチ実施）

第4回講習会（9月 1日）：ソフトピンチ

第5回講習会（9月 15日）：秋の花に向けて最後のピンチ

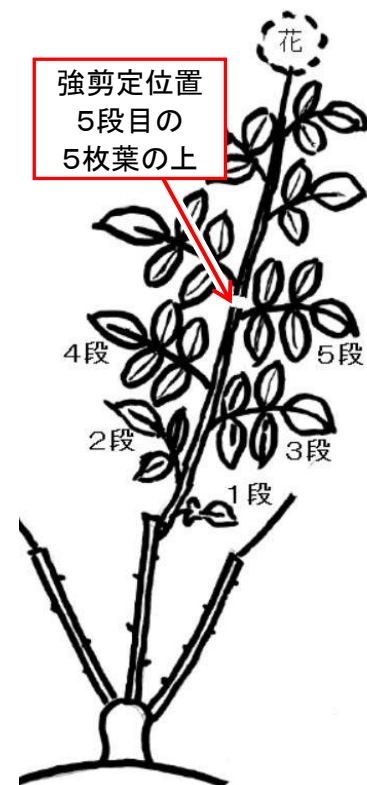
福島部長からご指導頂いた概要は以下のとおりです。

- ① 夏に冬と同じような強剪定をして、そこから伸びてきたシュート（新しい枝）を剪定に代えてソフトピンチを繰り返して仕立てる。
注1：この方法はHTやFLなど木立性（ブッシュ）のバラで行う。
注2：剪定後のベーサルシュートは通常のソフトピンチを行う。
注3：黒星病で葉を落葉させてしまったバラは強剪定しない。
- ② 強剪定日は、秋の開花計画日の45日前頃が最後のピンチとなるように、強剪定から約3週間で1回目のピンチを行い、その後は2週間ごとに2回のピンチを行うとして決める。例えば、11月1日を開花予定日として最終ピンチの日を45日前の9月15日とすると、強剪定後3週間で1回目のピンチをして、その後2週間ごとのピンチを2回するとすれば、強剪定日は7月28日頃になる。
- ③ 強剪定の位置は、冬の剪定枝から伸びたシュート（花枝）の5段目の5枚葉（枝の付け根から未熟な葉も含めて数えて5段目の5枚葉）の上で剪定する。
- ④ 強剪定後に伸びたシュートを約3週間後にソフトピンチする。
- ⑤ 最初のピンチから2週間程で2段目のシュートのピンチ時期となる。
- ⑥ 2週間ごとにピンチを繰り返して、秋の開花に向けての最後のピンチを9月15日頃に行う。尚、シュートの伸びを見てピンチが遅くならないようにする。

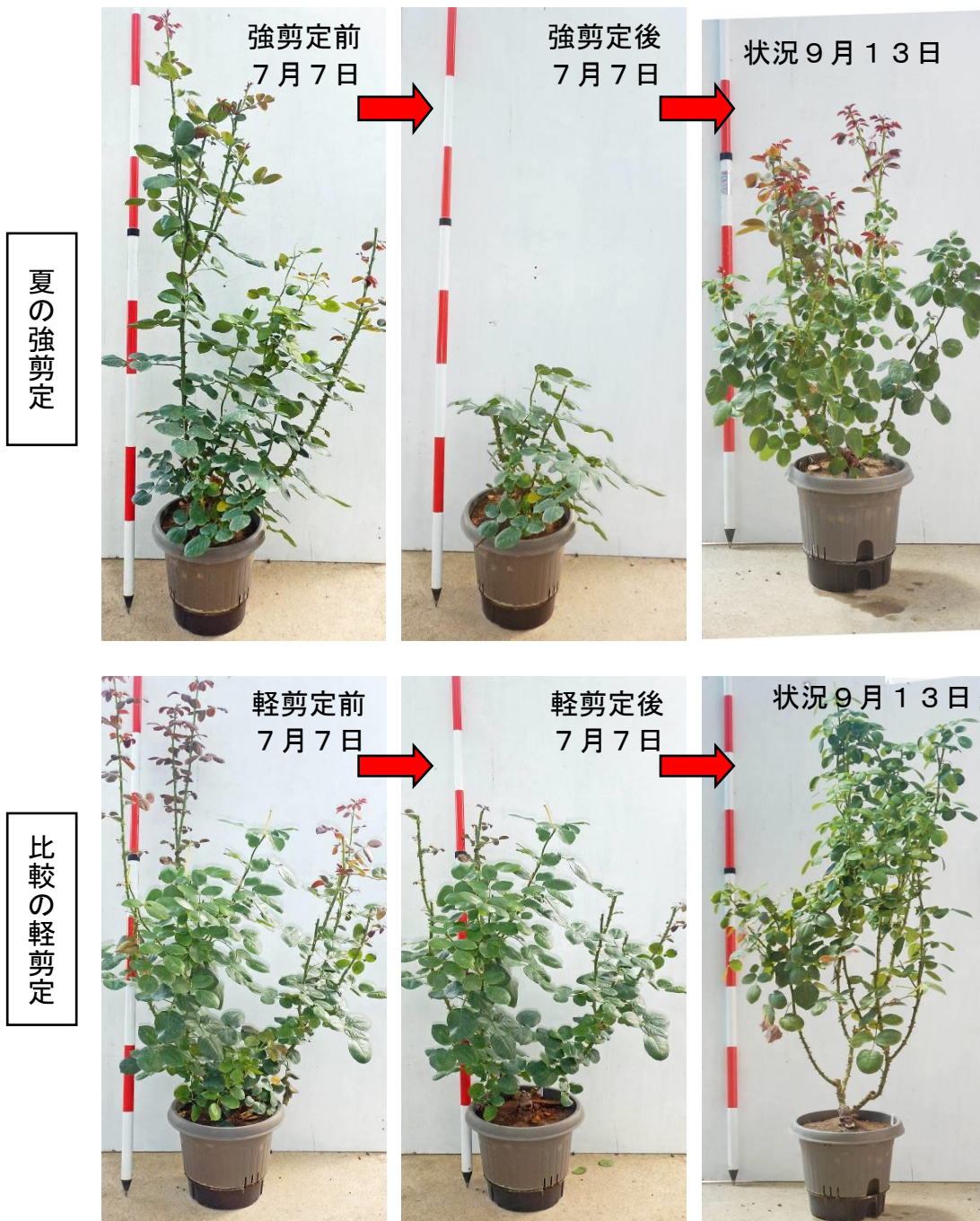
この方法は、福島部長が研究された仕立て方で、ばら教室では教えていない方法です。夏の生育期に強剪定を行うと、地上部と根のバランスが崩れて、根も減ると言われています。殆どのバラの本やバラ園でも夏に強剪定することは薦めていません。

今までの常識を覆す仕立て方です。しかし、昨年も同様に実習しましたが、秋にはたくさんの花を咲かせました。

但し、夏の強剪定は、剪定するまでのバラの生育状況や手入れによっては失敗する可能性もあります。また、上部の葉が無くなると、今まで遮光されていた下の葉が日焼けすることもありますので、強剪定後は遮光も必要です。仕立て方を十分に理解してください。実践される方は自己責任でお願いします。



7月7日の講習会の後に自宅の鉢植えのバラで実践しました。(正村)
 鉢植えの同じ品種(ルーージュロワイヤル)で、強剪定と軽剪定を行って、比較してみました。但し、各1鉢ですので誤差が大きいとは思いますが参考としてください。



7月に強剪定した株は、背丈が低く抑えられているので、秋の剪定後の秋の花も低く抑えられる。

比較の軽剪定した株は、背丈が高くなっているため、秋の剪定も高めになる。また、今夏の高温のためか下葉が落ちてしまったので見掛けが悪くなった。

夏の強剪定は、背丈を抑えられること、強剪定で新しい枝・葉に更新されること、台風の対策もしやすいことなど、利点があります。

まだ1株で試しただけですので、技術指導部講習の内容と秋の生育を見ながら、仕立て方を習得したいと思います。



バラの無農薬栽培について



事務局（正村）

会報アーカイブを見ていましたら2011年の206号に無農薬栽培について掲載していただきましたので編集して再掲載します。



簡単！快適！革命的！
あなたの栽培法が、きっとみつかる。
9人の12か月作業カレンダー付き。
東北から九州まで、農家の庭から都会のプランタ栽培まで。
無農薬でバラづくりを楽しむ9人の愛好家が、
土づくり、米ぬか活用法、おすすめのバラなどを具体的に紹介します。



バラ革命の本！
15年の蓄積から生まれた
米ぬかによる
簡単・安全・豊かな
バラ庭づくりの方法を紹介。
●毎月の作業を、バラや米、土など、図の様子をまじえて具体的に解説します。
●農家が読んでいて、ベネッセローズ6品種もカラー写真付きで掲載。

無農薬栽培によるバラづくりの本が多く出版されていますがその中で先駆けとなった本は平成8年（1996年）5月に発行された「バラの園を夢見て」（婦人生活社 私の部屋ビズ編集部編）ではないかと思っています。

その後平成16年（2004年）3月に「バラの園を夢見て Part2」（ベネッセコーポレーション発行）が発売されています。また近年はいくつかの無農薬によるバラの栽培の本が出版されています。

化学農薬の散布をしないでバラを育てられたらどんなにすばらしいことでしょう。

私も「バラの園を夢見て」が出版された頃に自然農薬を使ったばらづくりに挑戦したことがありました。

熊本県清和村で有機農業を実践されていた古賀綱行さんが書かれた「自然農薬で防ぐ病気と害虫」（農文協発行）を読んでからでした。

それから2、3年間、酢を散布したり、アセビの煮出し液を散布したり、焼酎に唐辛子とニンニクを漬け込んだ液を薄めて散布したり、木酢液にニンニクを漬け込んだ液を薄めて散布したりと、手当たり次第にやってみました。

しかし結果は失敗でした。自然農薬は分解が早いのか、効果が薄いのか、露地植えのバラは梅雨を過ぎた頃には殆どの葉を黒星病で落としていました。

今考えると、何でもかんでも無農薬栽培ができるわけではなく、病害に強い品種を選んで植えるとか、雨が掛からないハウス栽培で自然農薬を使用するなどの使い方の工夫が必要ではなかったかと思っています。

バラづくりでは農薬散布は避けては通れない問題ですが、自然農薬栽培を実践した頃に、半袖で食酢を散布したときの安心感は忘れられない経験でした。しかし、自然農薬だから全てが安全・安心ということはありませんので注意が必要です。焼酎唐辛子液は風に吹かれて身体にかかるとヒリヒリしてたまりませんし、アセビ煮出し液は有毒です。

バラの無農薬栽培の実践本として紹介した「バラの園を夢見て」には木酢液を基本にして“農薬ではない漢方系の生薬”の「碧露」「緑豊」を使った防除が紹介されています。しかし「碧露」「緑豊」には2008年に農薬の成分（ピレトリンやロテノン）が検出されています。なんと農薬が入っていたのです。（発覚後販売禁止となった）

本には木酢や碧露を散布するようになって息ができるようになったと書かれていますが、安全だと思って無防備で15年間も散布されていたということですから、大変危険なことをされていたこととなります。

「ヒメコガネにスプレーしてみると、みるみるうちに死んでしまいました」とも書かれています。農薬が入っており効果があるのは当たり前です。だいたい天然生薬にそれほどの効果があること自体が怪しいと思わなければなりません。コガネムシがイチコロで死んでしまうくらいなら、人体にも危険なことくらいは想像が付きそうなものです。

天然成分という“うたい文句”を信用して使っていると、とんでもないことがおこる可能性があるということでしょう。農薬でないものとして販売されているものについては、効果や安全性の確認が公的機関で行われていないものがありますので、使用に際しては念のため人体防護を行ってください。

私は無農薬栽培を完全否定しているわけではありません。自然農薬栽培や減農薬栽培の方法を確立することは、バラ栽培の普及にもつながるものと思っています。半袖で酢を散布したときのような安全・安心の栽培方法を追求していきたいと思っています。もし実践されている方がおられましたら効果などをご紹介いただけたら幸いです。

ここで、インターネットの「農薬ギライのためのバラ作りのページ」におもしろい記事がありますので紹介します。

無農薬栽培ではありませんが、殆ど科学農薬を使用せずにバラ作りをされている“GAMI”さんのページです。

野菜の中の自然農薬についても書かれていますので以下にその要約を紹介します。

■化学農薬よりスゴイもの・・・植物は農薬工場

そもそも、植物とは誰のためにあるのでしょうか？人間のためでしょうか？それとも草食昆虫やほかの動物のためでしょうか？宗教論争なら話は別ですが、科学的な見地からはやはりどちらでもないと考えるのが妥当でしょう。例えばドクガの幼虫は毒針をもっていますが、かれらはなんのためにそうしているかと考えると、ほかの動物に食われないように防衛目的でそのようになったと考えるのが普通だと思います。

昆虫と同じく、生き物である植物も、食われて絶滅してしまう事態から免れるためにはなんらかの防衛手段が必要です。そのために進化の段階で種々の自衛システムが発達してきたと考えられています。植物の場合は、身動きできず逃げようがないので、「化学兵器」による自己防衛システムが発達しました。

植物が使用する「兵器」にはフラボノイド、アルカロイド、植物性エクソダイン（脱皮ホルモンもどき）、グルコシノレート、青酸配糖体、テルペン類、有毒タンパク質などなど、あげればきりがなく非常に多彩です。ただ、これらが草食動物や草食昆

虫への防衛システムとして機能しているだけならいいのですが、自然は正しい意味で「平等」ですから、植物を食べる人間だってタダじゃすまないのは当たり前です。

この化学兵器のうち、とくに効果の点から人間によって選ばれたものはいわゆる「自然農薬」となっており、そのなかからさらに詳細に検討されたものの中にはロテノン（現在は使われてない）、ピレトリン、ニコチンなど実用的な農薬になるものも出てくるわけです。

もうお分かりでしょう。この植物の自己防衛システムに使用される「天然の農薬」ともいべき有毒物質が、野菜を食べることによって1日あたり1.5g（米国の場合）も摂取されていると計算されているのです。この事実はカリフォルニア大学バークレイ校のBruce N. Amesによって指摘されました。当時はだいぶショックだったようで「エームス・ショック」と言われています。

我々の祖先が長い時間をかけて築き上げた農耕文明は品種改良と選抜の歴史でもありました。それは、より多くの収穫を生む品種の選択であると同時に、より毒性の少ない品種への改良・選別がその目的であったことを忘れてはなりません。その歴史の選択をパスした野菜たちでさえも、まだこれだけの天然農薬を含有しているのです。

しかも現在用いられている発ガン性の確認手法で調べると、これら化学兵器の多くが発ガン性ありと認定されると考えられています。下表がそれらのうち動物実験で発ガン性が認められたもののホンの一例です。食用植物にしてこれですから・・・

発がん性が認定された化合物	含有する植物	含有量 (ppm)
5-または 8-メトキシプソラーレン	パセリ	14
〃	セロリ	0.8~25 (ストレス付与時)
シニグリン (アリルイソチオシアネート)	キャベツ	35~590
〃	カラシ (褐色)	16,000~72,000
〃	芽キャベツ	110~1,560
リモネン	オレンジジュース	31
〃	黒コショウ	8,000
酢酸ベンジル	ジャスミン茶	230
カフェー酸	リンゴ、ニンジン、レタス	50~200
クロロゲン酸	コーヒー (焙煎豆)	21,600

Source: B. N. Ames, et. al.: Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 87, 7777 (1990)

一方、化学農薬で栽培されている普通の野菜に残留している合成農薬の量はどれほどのものでしょうか。どちらかという農薬を悪者にしたがっている編集方針が見て取れる「農薬毒性の事典」から引用すれば、きっと「高め」の値が得られるでしょう。

文献で野菜に関してしてみると、ごくわずかの不正使用の例を除き、「検出せず」というのが普通のようなものでした。

いかがですか、残留農薬は植物本来の天然農薬に比べて桁違いに少ないことが分かりますが、食品中に残留している化学農薬は、先に挙げた天然農薬「1.5g」の、なんと1万分の1といわれています。おまけに現在の化学農薬は、選択毒性について考慮されているものが多いので、実質的な毒性効果は単純な量による比較以上にひらいているかも知れません。

さらに、化学農薬を使用していると、野菜は害虫の攻撃に対抗する防衛システムをフルに稼働する必要がありませんから、「兵器」の合成をサボります。つまり化学農薬によって外敵からのストレスが軽減された環境で栽培されている野菜が含有する「化学兵器」の量は、必死に害虫たちと対抗しなければならない無農薬栽培野菜のそれより少なくなると考えるのが自然です。

でも、数字ばかりではピンとこないですね、では天然農薬による問題の具体例を二つばかり挙げてみましょう。

アブラナ科の植物に含まれるグルコシノレート（カラシ油配糖体）は、ワサビや大根おろしの辛みのモトですが、これのおかげで、大根やキャベツにはアオムシくらいしかつきません。多くの害虫が忌避します。

このグルコシノレートのあるものを摂りすぎると甲状腺の機能低下や腫瘍の発生がおきることが古くから知られているようで、キャベツやケールを摂りすぎて、さらにヨードの摂取量が不足すると問題となるようです。また、グルコシノレートが加水分解して出来る物質は、腎臓や肝臓障害を引き起こしますが、このような加水分解は植物が障害を受けたときに進行します。つまり害虫に食われてダメージを受けた無農薬キャベツは化学農薬で守られた無傷のキャベツよりヤバイということにもなるのです。

また、セリ科の植物に多く含まれるフラノクマリン類は多様な毒性を示します。代表的なのは光増感作用です。これを食べたり皮膚から吸収したりしたあとで太陽光に当たると皮膚にはやけどのような炎症を生じ、視力を失います。致命的に作用する場合は心臓麻痺を起こします。セリ科植物を食草とするキアゲハの幼虫は、このフラノクマリンを分解無毒化する能力を有しているため、餌場を独占できますが、人間はそうではありません。

例えば、障害を受けたセロリに含まれるフラノクマリン濃度は、ときに危険なレベルまで上昇することがあるようで、栽培中や冷蔵保存中に菌核病にかかったセロリに接触したあとで日に当たると、やけどすることが人体実験で確かめられているそうです。

いかがですか？「農薬がかかって虫も食わない野菜なんて怖くて食えたもんじゃない！」などというセリフが、無農薬野菜礼賛者から聞かれることがありますが、これがなんの根拠もない思いこみだということがお分かりいただけでしょうか。

正解は「無農薬なのに虫が付かないほど丈夫な野菜には、いったいなにが含まれているんだ？ ヤバイぞ」・・・です、たぶん べ(^_^;)

■野菜を食べるとガンになる？

結局、発ガン物質としての量からだけみれば、大量の自然発ガン物質に極微量の合成発ガン物質を加えても、自己防衛能力の強力な無農薬野菜の発ガン物質総量には及ばないと考えられるのです。

なら、なんで無農薬野菜食べ続けてもガンにならないんだ？と思いますよね。

ご存じのように、適量の野菜を摂ることは、発ガンの抑制につながるということは

確立した考えのようです。これは野菜に含まれているビタミンやカロチノイド、ミネラルあるいは食物繊維が、抗酸化作用や発ガン物質の排出作用を発揮して発ガンを抑制するというこのようです。そのメリットのほうが天然農薬の影響よりも大きいということが理由なんだろうと思われます。

しかし実際には、食べ物による発ガンリスクって、我々シロウトが考えるほど低いものじゃありません。下の表を見てください。

これは、ガンの原因についての、一般主婦とガンの原因追及のプロである疫学者の考え方の違いに関するもので、雑誌「暮らしの手帳」1990年4・5号に掲載されたものです。

ガンの原因と思うもの 主婦の考え、ガンの疫学者の考え

ガンの原因と思うもの	主婦の考え (%)	ガンの疫学者の考え (%)
食品添加物	43.5	1
農薬	24	0
タバコ	11.5	30
大気汚染・公害	9	2
おこげ	4	0
ウイルス	1	10
普通の食べ物	0	35
性生活・出産	0	7
職業	0	4
アルコール	0	3
放射能・紫外線	0	3
医薬品	0	1
工業生産物	0	1

なんと主婦の24%が農薬はガンの原因だと考えている一方、プロの疫学者でそう考えている人はゼロです。そもそも専門家は化学農薬を発ガンの犯人として認めていないようです。また、普通の食べ物がガンの原因だと考える主婦はいませんが、疫学者は最大の原因と考えています。その怖さは悪名高きタバコ並みなのです。

普通の食べ物が一定の危険性を持っているということの中には、肉や脂肪の多食、漬け物、塩辛いもの、薫製などによるもの、あるいは、カビ毒、消化管内での発ガン物質発生などが主で、アルコールの影響も含まれていると思います。

野菜による影響分に関しては、ワラビやフキ、コンフリー、セロリ、マッシュルームなどの発ガン性が強いものを多量に長期間食べた場合などが含まれるかもしれませんが、このような場合は例外的で、一般的に野菜では発ガンを促進するよりは、上に記したように、含有する各種ビタミンや食物繊維などのガン抑制因子による、ガン抑制の効果の方が大きいと考えられていると思います。

米国での調査では、全人口を4等分してグループ分けすると、もっとも野菜摂取の少ないグループと、もっとも多いグループとでは、発ガン率に2倍のひらきがあるそうです。もちろん野菜をたくさん摂った方が発ガン率は低いという結果です。

無農薬野菜と農薬野菜との差は、おそらく疫学的に調べた例は無いと思いますので、データで明確にはされていないでしょう。調べられていないのは、サボっているからではなく、そのほかの多くの周辺データを根拠に、差など無いと結論できるからだと思います。

このように、幸いというかナンというか、野菜は無農薬だろうが普通のスーパーに並んでいるモノだろうが、ガンの原因という観点では差なんかなさそうだということと言えるのではないのでしょうか。最悪、わずかな違いがあったとしても、そのときは完全無農薬の方がリスクが高いといえそうですが・・・

GAMIさんのページいかがでしたでしょうか。

結局、野菜を適量食べることは、無農薬栽培の野菜でも、適正に農薬を使った野菜でも、どちらも健康にプラスになるということでしょう。

何事も過剰に反応して、科学的な分析もなく、思い込みで判断することが危険であるということですね。

これは先の“農薬ではない漢方系の生薬”の「碧露」「緑豊」に農薬が混合されていた問題にも言えるのではないのでしょうか。法的・科学的な審査もないものには注意する必要があります。

バラは食べないので農薬の残留にはそれほど気をつかわなくても良いのかもしれませんが、バラが健康に育ってバラの自己防衛物質「ファイトケミカル」で病害虫が抑制できるなら理想的です。

九州ばら懇話会佐世保大会で講演された菌ちゃんふぁーむ代表の吉田俊道様の土壌微生物（根に有益な糸状菌）を活かした元気野菜づくりの話は大変参考になりました。すぐに電子書籍を買って読みました。そして、自宅前の空いている畑で野菜づくりを実践してみようと考えているところです。

糸状菌の話から思い出したのは、いま手入れをしている運動公園のバラ園でのことです。

先日、バラアーチの横に置いていた廃材をどかしたら、木くずから白い菌糸が伸びていました。土壌に有機物を分解する糸状菌が多くなっているのかなと思ったところです。

有益な糸状菌が多いとバラも元気に育って防除も少なくて済むかもしれませんね。

でも、昔の自然農薬の失敗を考えると定期防除を止める勇気はありません。（正村）



木くずに生えていた菌糸



病虫害防除について



熊本県農薬指導士 正村 正輝

農薬を使用するときに決まりがあるのだろうかと疑問を持たれている方はおられませんか。農作物に使用される農薬については以下のとおり決まりがあります。

■農薬の登録制度について

野菜や果樹などに散布する農薬は、その作物の種類ごとに登録された農薬を使わなければなりません。

その作物に対して農薬の使用回数は、農薬の種類とその農薬に含まれる有効成分ごとに決められています。また、農薬を使ってから作物の収穫までの日数も「収穫7日前まで」などのように決められています。

なぜ作物ごとに使用できる農薬と使用回数が決められているのでしょうか。

開発した農薬をどの作物に登録するかは農薬メーカーが決められています。農薬を開発して使用してもらいたい作物に登録するには多額の費用が掛かります。多くの作物に対して登録するとその分費用が掛かります。そこで農薬メーカーはその農薬を使用してもらいたい作物だけに登録しています。

実際には登録されていない作物でも同じ病虫害なら効果はありますが、農家がつけている野菜や果樹に登録されていない農薬を使用すると、農薬取締法や食品衛生法で出荷できなくなります。

■残留農薬の基準とは

農薬散布後から決められた日数が経っていれば農薬の残留量が基準値以内に収まるので、収穫して食べても安全です」ということを示しています。

例えば野菜の使用時期には「収穫7日前まで」などの収穫前日数が記載されています。収穫前日数は生産者が収穫日の何日前まで薬剤を散布してよいということを意味しています。つまり、薬剤散布後から記載された日数が経っていれば、農薬の残留量が基準値以内に収まるので、収穫して食べても安全です」ということを示しています。

残留農薬の基準はどのように決められているかという「一日摂取許容量」で決められています。食品添加物や農薬などのように、意図的に食品に使用される物質や残留する農薬について、一生涯に毎日摂取し続けても健康への悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量で決められています。

動物を使用して、中・長期の毒性試験を行い、毎日食べても実験動物に影響を与えない量である「最大無作用量」が求められます。しかし、これは動物でのデータであり、そのまま人間に適用することはできません。動物によって「最大無作用量」は異なるため、一番厳しい数値を基準にして、生物間の差で1/10、個体差で1/10を掛けた量を「一日摂取許容量」としています。

また、24時間以内の短時間に摂取しても、健康に悪影響を生じないと推定される摂取量を「急性参照用量」といいます。口から摂取して胃に投与した際の毒性「経口急性毒性」の最大無作用量に、「一日摂取許容量」と同様に、1/100の安全係数を掛けた量です。このように、長期、短期に人が摂取しても影響を及ぼさない上限値が定めら

れています。

実際にどのくらいの農薬が残留しているのでしょうか。平成 21～22 年度食品中の残留農薬などの一日摂取調査結果が厚生労働省から発表されています。農薬など 47 の物質がどの食品群においても検出されましたが、検出された物質の残留量は、一生涯食べ続けても悪影響がないと推定される一日摂取許容量の 0.01～5.92%でした。スーパーマーケットで売られている野菜や果実は殆どが安全と言えるでしょう。

■農薬使用基準の遵守を罰則付きで義務化

農薬を定められた方法で適正に使用することは、農作物を病害虫や雑草から守ることだけではなく、人の健康や環境への安全を守るためにも非常に重要です。そうしたことから農薬使用者が遵守しなければならない責務や、取り組むように努める事項について農薬取締法で定められています。これらは「農薬使用基準」と呼ばれています。

尚、この基準に対して違反があった場合には罰則（3 年以下の懲役若しくは、百万円以下の罰金、又はこれを併科する）があります。

農薬の使用においてはラベルに記載されている事項を遵守することが基本です。

食用作物（飼料作物を含む）での農薬使用においては、以下の①～④の違反は重大な過失として農薬取締法の罰則の対象になります。

また、収穫物における農薬の残留が残留基準値を超える恐れもあり、基準値を超えた場合には食品衛生法違反になり出荷停止や回収が必要となります。

- ① 適用がない食用農作物へは使用しないこと
- ② 定められた使用量、または、濃度を超えて使用しないこと
- ③ 定められた使用時期（収穫前日数等）を守ること
- ④ 定められた総使用回数以内で使用すること

この他に農薬使用基準には、農薬使用者が安全使用に配慮する上で次のような事項に努めることを求めています。

- ① 農薬使用の内容を記帳する。（花・樹木などの非食用農産物の農薬使用者も含む）
- ② 有効期限切れの農薬を使用しない。
- ③ 住宅地周辺での散布では、農薬が飛散しないように必要な措置を講じる。
- ④ 水田での使用など、農薬が流出しないように必要な措置を講じる。
- ⑤ 被覆を要する農薬（土壌くん蒸剤）を使用する場合は、揮散防止に努める。

以上が農家が農作物に使用する農薬の決まりです。（サカタの種園芸通信より引用）

私たちがスーパーマーケットで買っている野菜は農家の安全な農薬の使用によって作られているのです。また、農薬＝毒のイメージがありますが、農薬の殆どが普通農薬で、十分に人体への安全性を確認して開発されています。万一、微量の農薬が人体に入っても毒性が出る前に分解されてしまいます。

では、趣味のバラづくりに於いての農薬の使用はどうなるのでしょうか。

私たちは趣味でバラを育てていて食べるためや切り花で販売する目的ではありません。個人でバラづくりを楽しんでいるだけです。そのため農薬取締法や食品衛生法の適用を受けないと判断します。個人の責任で農薬を使用することになります。

但し、安全に使用して周囲に迷惑を掛けないようにする必要があります。周囲の住宅へ飛散したり、用水路へ残った農薬を流したりしないようにしなければなりません。

また、周囲の畑へ飛散させてしまうと、その農作物は出荷停止となってしまうこともあります。農作物への飛散（ドリフト）には注意が必要です。

次にバラづくりでの重要病害虫と防除について説明します。

【重要病害虫】

1 病害（殆どの病害は真菌(糸状菌＝カビ)によるもの)

- ① 黒星病 20℃～25℃が生育適温で雨に半日も濡れていると感染する。
- ② うどんこ病 18℃～25℃、湿度70%以上が生育適温で、雨に濡れていると発生しない。
- ③ べと病 多湿で少し気温が低い、昼夜の温度差が激しい時期に発生する。

2 害虫

- ① スリップス（アザミウマ）
20℃～30℃が生育適温で、花びらや葉の中に産卵し幼虫は花びらを加害する。繁殖力が強く1ヶ月で70倍に増殖する。せっかくの花にシミをつけてしまう小さくてやっかいな虫です。
- ② 蛾の幼虫（ヨトウガ、ホソオビアシブトクチバ、オオタバコガなど）
初夏から秋にかけて数回発生し、成虫が飛んできて葉裏などに沢山の卵を産み付ける。幼虫が葉を食害する。
- ③ ハダニ（ミカンハダニ、カンザワハダニ（赤色）、ナミハダニ（黄緑色）など）
体長0.5mmほどで肉眼では確認しにくい。水に弱く、葉裏に生息する。口針を葉に刺し吸汁するため葉全体が白っぽくなり生育が悪くなる。

その他にも「灰色かび病」「枝枯れ病」「アブラムシ」「チュウレンジバチ」「バラゾウムシ」「コガネムシ」など、バラには沢山の病害虫が発生します。

【防除について】

バラづくりでは黒星病、うどんこ病、べと病など病害防除が最も重要です。害虫防除は、害虫がいなければ防除する必要はありませんが、被害が大きくなる前の発生初期の防除や開花前のスリップスの予防的な防除が必要です。

重点的に防除が必要な期間は春に芽が伸び出した頃から雨の多い梅雨時期と秋の剪定から秋の開花までです。

3月末から5月は気温の上昇とともに病原菌と害虫が一斉に活動を開始します。病害虫が発生してから防除しては追いつかないくらいです。

梅雨時期は特に黒星病の防除は欠かせません。黒星病で葉を落としてしまうとバラが弱ってしまい秋の花が期待できません。

真夏の高温期は病害虫も夏バテ？でおとなしくしていますが9月になって幾分涼しくなってくるとまた活動を再開します。せっかく秋まで葉を落とさないように防除していても、ここで怠ると秋にきれいな花を咲かせることができません。

尚、防除は長袖、マスク、メガネなどで人体防護を行い、早朝や夕方などの気温が低めの時間に行います。

1 病害用農薬例

予防的農薬	治療的農薬
ジマンダイセン水和剤 600 倍	サプロール乳剤 1000 倍
ズボルドー水和剤 500 倍	ラリー乳剤 4000 倍
オーソサイド水和剤 800 倍	サルバトーレME液剤 3000 倍

露地栽培の場合は黒星病が最も重要な病害です。雨に6時間も濡れていると感染の恐れがあります。そのため雨の前日から降り出す1時間前までに散布します。雨前に散布できなければ雨後に水滴が乾いたら直ぐに散布します。

予防的農薬と治療的農薬を混用して散布しますが、組み合わせは散布の都度替えます。尚、オーソサイド、ダコニールなどの有機塩素系の農薬は、高温期に薬害の発生の恐れがありますので、気温が30℃以上になるときは使用しません。

2 害虫用農薬例

卓効剤（一発で殺虫する薬剤）	脱皮阻害剤（長期的に殺虫する薬剤）
アディオン乳剤 2000 倍	マッチ乳剤 3000 倍
トレボン乳剤 2000 倍	カスケード乳剤 2000 倍
オルトラン水和剤 1000 倍	アタブロン乳剤 2000 倍

アディオン、トレボンは合成ピレスロイド系の農薬です。一発で害虫を駆除できない時に何度も繰り返して散布すると農薬に対して抵抗性のある害虫が増えます。一発で駆除できなかった時はネオニコチノイド系のアドマイヤーなど別の系統の農薬を散布します。害虫は一回の散布で“皆殺し”が基本です。

また、スリップスなど繁殖力の強い害虫は、成虫が死んでも残った卵から直ぐに繁殖しますので、脱皮阻害剤を混用します。

卓効剤と脱皮阻害剤の組み合わせは散布の都度替えます。

3 ハダニ用農薬例

卓効剤（一発で殺虫する薬剤）	脱皮阻害剤（長期的に殺虫する薬剤）
カネマイト・フロアブル 1000 倍	ニッソラン水和剤 3000 倍
コロマイト乳剤 1000 倍	

ハダニは昆虫ではなくクモの仲間ですのでダニ専用の農薬を使用します。繁殖力が強く農薬に対して抵抗性が付きやすい害虫です。何度も同じ農薬を散布してはいけません。一回の散布で駆除することが基本です。水には弱いので晴れの日には水やりのついでに葉の裏にシャワーを掛けると予防になります。

私は病虫害の同時防除の時は混用しています。殺虫剤と脱皮阻害剤、病害用予防剤と治療剤の4種類を混用しています。ダニ剤は混用すると効果が落ちることがあるので単用します。（ハダニの予防効果があるジマンダイセンとの混用はしている）

展着剤は治療剤や卓効剤の浸透をよくするアプローチB1（1000倍）と予防剤の固着をよくするアビオンE（1000倍）の2種類を混用しています。メーカーで混用試験はされていないので個人責任でしていますが今のところ薬害は発生していません。

3月末から梅雨時期は1週間から10日間隔くらいで雨前の散布が基本です。雨の前に散布できなかったときは雨上がりに散布します。梅雨明けから秋の剪定までの高温期は、雨の前に病害用農薬を散布しますが、雨が降らないときは散布しません。

7月下旬から9月上旬の高温期は害虫の発生は少なくなりますので、害虫がいなければ殺虫剤は使用しません。秋の剪定後から秋の開花までは春と同様に散布します。



土づくりについて



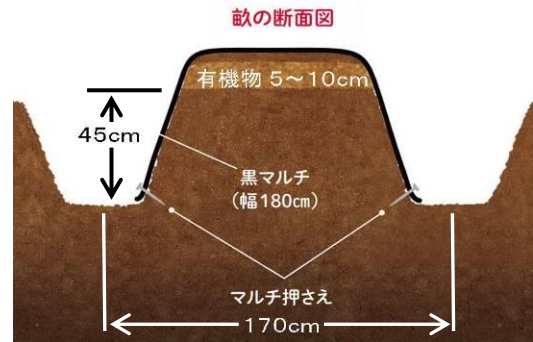
正村 正輝

九州ばら懇話会・佐世保大会で、菌ちゃんふぁーむ代表の吉田俊道さんが講演され、有益な糸状菌を活かした土づくりと野菜づくりの方法を伺いました。

モミガラ、刈草、竹チップなどの有機物を、土に混ぜずに畝の上のせて、その上に薄く土をかぶせ、ポリマルチをする方法です。

そうすると、有機物を分解する有益な糸状菌が増えて、野菜の根の生育が良くなり、病害虫に強い元気な野菜が育つということでした。

菌ちゃん式の土づくりは糸状菌ファースト。菌の中でも、特に糸状菌が優先的に活躍できるように工夫したところに特徴があるそうです。



2005年のサイエンス誌には、畑の土1グラムの中に、100万種の多様な微生物が20億は棲んでいると報告されています。その中には植物に対して有益に働くものもいれば病害を起こすものもいます。微生物たちは生き残るために、食べたり食べられたり、共生したり戦ったりしています。その拮抗したバランスが変わることで病害が発生したり健康な野菜が育ったりします。

地球上では、動物・人類の数に比べて、目に見えない微生物の数が圧倒的に多く、真の「地球の覇者」といえます。その土の中の微生物とうまく付き合っ土づくりをすることで良い土壌ができます。

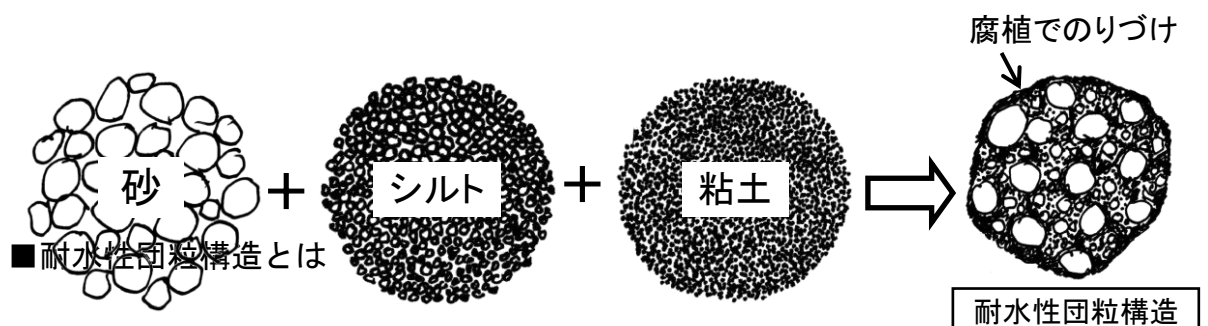
■土と土壌

土とは、岩石が風化して粉末になったもので、粒の大きさから、砂 (2~0.02mm)、シルト (0.02~0.002mm)、粘土 (0.002mm 以下) などが“土”です。

土壌とは、木や草、動物の死骸などの有機物が微生物やミミズなどの小動物によって分解されてできた「腐植」(ふしょく) と、砂・シルト・粘土が混ざり合っ出来上がった、植物を育てることができる土が“土壌”です。

■良い土壌とは

良い土壌とは、三相構造 (気相・液相・固相) のバランスが良い土壌です。孔隙率 (土の隙間) が60%程度で、その隙間に空気30%、水30%があり、個相 (土と有機物など) が40%ほどの土壌です。それは、微生物や小動物の働きで砂・シルト・粘土が腐植でのりづけされて出来上がった「耐水性団粒構造」の土壌です。

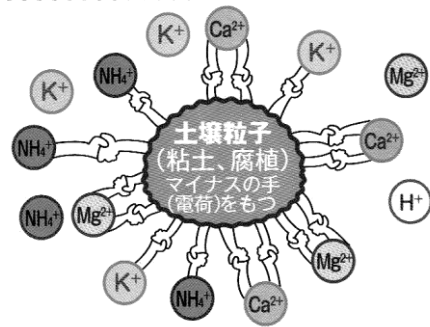


固まった土を耕すと固まりが壊れて粒状になりますが、粒の接着力が弱いため、雨が降ると粒がバラバラになって細かな土の粒子に戻ってしまい、元の固まった土になります。“雨降って地固まる”の状態です。

耐水性団粒構造とは、腐植でのりづけされた団粒で、粒の接着力が強いため、雨が降っても団粒が壊れることがありません。粒が大きいため、土壌の三相構造のバランスが良い土壌になります。

耐水性団粒構造はマイナスの電荷が大きいため、肥料成分などと結びつく力が強く、肥料を入れすぎても土壌が肥料成分を一旦保持して肥料傷害を抑えます。また、急激なpHの変化も起こり難くなります。このことを土壌の緩衝作用といいます。

土壌の緩衝作用

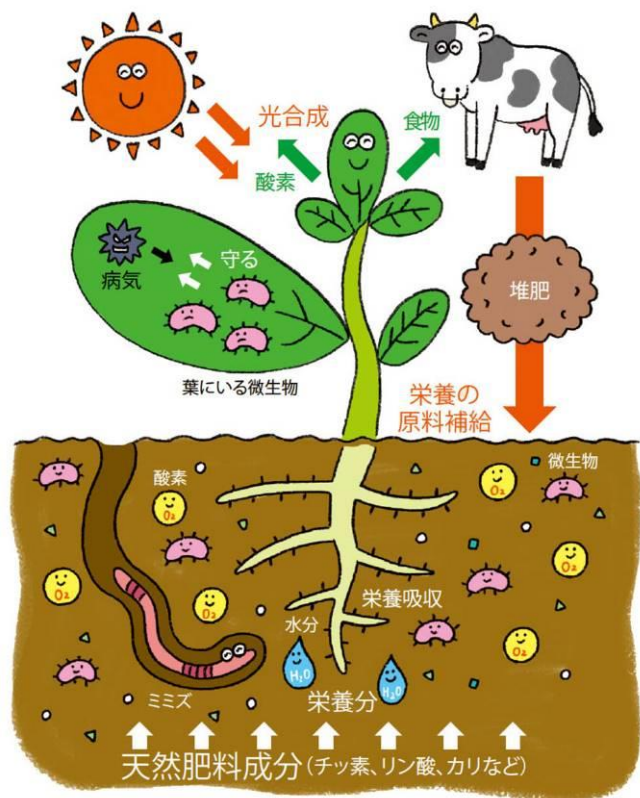


■良い土壌をつくるには

有機物を微生物やミミズなどの小動物に分解してもらって、耐水性団粒構造の土づくりをすると良い土壌になります。

バラを植える土壌づくりは以下のようにになります。

- ① 固まった土をできるだけ深く広く耕す。
- ② 腐葉土などの有機物をたくさん土に混ぜ込む。
- ③ 米ぬかなどの生の肥料や発酵が不十分な牛糞堆肥は土に混ぜ込まずに表土に撒く。
- ④ 発酵が進んだ堆肥を混ぜ込む場合でも苗を植え込む3ヶ月程前に混ぜ込む。
- ⑤ 表土にはマルチング（敷きわら）をする。堆肥、腐葉土、ワラなどを敷くことで有機物の補給を行う。





鉢植え用土比較その後



正村 正輝

新苗を植えて用土の比較をしていますが、前号からの生育状況を報告します。

【今回の用土比較】

各用土の基肥の差が少ないように基肥が入っていない用土と基肥が少ない市販用土にはマグアンプKを基肥として入れた。

同じ品種（ガブリエルオーク）の新苗を底面給水8号鉢に植えて比較した。

ア 比較用土（今回は基肥の差を少なくするため①と②の用土には基肥を入れた）

- ① 赤玉土とベラボンM5の等量混合 ＋マグアンプK 10 g / 1 L.
- ② 市販用土「か～るい培養土」＋マグアンプK 6 g / 1 L
（ココヤシの殻を砕いたココヤシピート、菌根菌、緩効性肥料入り）
ホームセンター・コメリで購入
- ③ ブレンド用土
赤玉土30%、ヤシガラ25%、バーミキュライト25%、牛糞堆肥20%



■ 4月17日にガブリエルオークの接ぎ木苗を各用土に植え付けた。

底面給水8号鉢
用土の量は8 L

- ① N(窒素)総量
マグアンプKでN4.8g
- ② N(窒素)総量
マグアンプKでN2.9g
＋用土のN量(不明)
- ③ N(窒素)総量6.4g
(堆肥のN量換算)



■ 6月10日の生育状況



植え付けから約2ヶ月後の生育の差はそれほど無いようです。
6月10日に各鉢に緩行性肥料を20g置肥しました。

■ 9月10日の生育状況



植え付けから約5ヶ月後も生育の差もそれほど無いようです。
排水性・保水性・通気性が良い用土であれば、水と肥料を適切に与えていれば生育に差が出ないように感じました。

バラはノイバラの根に接ぎ木されています。ノイバラは、河川敷や土手、山など、あらゆる所に生えています。根は丈夫なのかもしれませんね。



月々の手入れ



10月～12月の手入れを簡単にまとめました。
詳細は配布しています「ばらの手入れ」でご確認ください。

【庭植え】

10月	11月	12月
<p>■定期病害虫防除 秋の剪定後は1週間から10日ごとの定期防除を続けます。 10月中旬にはステムに蕾が見えてきます。 秋花をきれいに咲かせるために花を汚くするスリップスに注意します。 蕾が開いて蕾の中にスリップスが入り込む前に防除します。 スリップスにも効果がある農薬を定期防除に混用します。定期防除の間隔が開くときやスリップス発生のある時は3日ごとに殺虫剤を蕾を中心に散布します。</p> <p>■支柱 花枝が倒れないように支柱を立てます。</p> <p>■施肥は行いません。</p> <p>■大苗植え付け 開花した鉢植えの大苗を購入されて庭に植えるときは、12月までは鉢植えのままにしておき、植え付け場所の土づくりを先にします。 掘り上げ裸苗の場合は鉢や庭に仮植えします。仮植えすると芽が伸びますが、冬剪定は1月末から2月上旬にします。</p>	<p>■開花後の花がら切り 開花後の剪定は切り取る枝に5枚葉を1, 2枚付けて剪定します。(良い芽の上で剪定する) 近年は12月も暖かいので、花後剪定すると、花枝が伸びてきて12月に花を楽しめます。</p> <p>■定期病害虫防除 秋の花後は11月下旬まで定期防除を続けます。 秋花後に伸びたステムに花を咲かせる場合は防除が必要です。 11月でも気温が高いと害虫も発生します。雨が少ないとハダニが発生しやすくなります。 害虫やハダニは葉の裏にいますので葉の裏を観察します。 ハダニにはハダニ専用の農薬を散布します。 晴れの日には葉の裏にシャワーをかけるとハダニの予防になります。</p> <p>■土づくり 冬に大苗を植え付ける場所は早めに土づくりをします。 できるだけ深く広く耕して、腐葉土や堆肥を土にたくさん混ぜ込みます。</p>	<p>■大苗の植え付け 通販で苗を購入する場合に配達時期を指定できるときは12月にします。 事前に土づくりした場所に植え付けます。 大苗は汚れている枝先は少し切り戻して枝先からの枝枯れ病の感染を予防します。</p> <p>■冬の基肥 冬は多少根を切断しても問題ないので、株の回りに腐葉土や堆肥、肥料を混ぜ込みます。 堆肥を敷きつめるだけでも良いです。</p> <p>■病害虫防除 越冬する病害虫の防除には石灰硫黄合剤を枝や株元にジョウロで掛けるかハケで塗ります。【注】株元の浮いた皮は剥がして石灰硫黄合剤で病害虫の越冬を防ぎます。</p> <p>■つるバラの剪定・誘引 つるバラは芽が伸び始めてから枝の整理や剪定をすると芽を傷めるので、12月から剪定・誘引を始めます。</p> <p>■HT、FLなどの剪定 1月末から2月上旬に行います。不要な枝の剪定は早めに行っても良い。</p>

【鉢植え】

10月	11月	12月
<p>■定期病害虫防除 雨に濡れると黒星病(黒点病)になります。 雨に濡れない軒下や光を通すポリカーボネート波板屋根の下などに置くと黒星病が発生しません。 雨に濡れないところでは「うどんこ病」の発生に注意します。 いずれにしろ病害を防ぐには1週間～10日ごとの定期防除をします。 害虫用農薬も定期防除に組み込みます。</p> <p>■施肥 10月までは施肥します。表土に緩効性肥料を置きます。 緩効性肥料を9月に置肥したら10月まで肥効がありますので、10月の置肥は半分ほどの量にします。</p> <p>■水やり 気温が下がってくると根の吸水量も減ってきます。土の乾き具合をみて、朝夕の水やりを朝だけにします。晴れの日には水やりの時に葉の裏にシャワーをかけるとハダニの予防になります。</p>	<p>■開花後の花がら切り 庭植えと同様です。</p> <p>■定期病害虫防除 庭植えと同様ですが、雨に濡れにくい所に置いている鉢はハダニの発生に注意してください。</p> <p>■秋の開花後の施肥は行わなくてもかまいませんが、近年は気温が高く、クリスマス頃まで咲かせる場合は、開花後に一度施肥します。</p> <p>■水やり 土の乾き具合をみて水やりします。</p>	<p>■植え付け 購入した大苗を鉢植えする場合は根を洗って枯れた根を剪定して植え付けます。 大苗の枝先が汚れていたり枯れ込んでいたりしたら少し切り戻して枝枯れ病を防ぎます。</p> <p>■植え替え 鉢植えの用土を取り替えるため植え替えます。 古い用土は根ごとハサミやナイフで削ぎ取って新しい用土で植え替えます。 植え替え時に不要な枝は剪定して整理します。 冬の剪定は1月下旬から2月上旬に行います。</p> <p>■病害虫防除 越冬する病害虫の防除や剪定枝先の殺菌には石灰硫黄合剤を株元や枝にハケで塗ります。【注】 株元の浮いた皮は剥がして石灰硫黄合剤を塗り病害虫の越冬を防ぎます。</p> <p>■水やり 12月でも土の乾き具合をみて水やりします。</p>

【注】

石灰硫黄合剤の500mLボトルは販売中止されています。
熊本ばら会で2Lペットボトルに小分けして1本500円でお分けします。
必要な方は本号の事務局だよりをご確認ください。

編集後記

(正村)

本号に技術指導部講習会の内容を掲載しました。

技術指導部部長の福島康弘さんは、私が入会した34年前もばら教室の講師をされておりました。入会した頃は福島さんの講習内容を半分も理解できませんでしたが、言われるとおりに土づくりをして、薦められた品種を植え付けて、手入れを続けたら、翌年の九州ばらまつりのコンテストの新人の部で一等賞を頂くことができました。

現在のばら教室の内容は、34年前の福島部長の講習内容が基になっていますので、ばら教室で基本を身につけて頂けたらと思います。

その後、福島部長は熊本ばら会から離れてバラの育成研究を続けられ、4年前に再入会されました。日々バラの育成研究に取り組みながら34年前の仕立て方から進化させておられます。

34年経った今でも福島部長には追い付けないでいますが、福島部長の仕立て方を理解して、かみ砕き、分かりやすいようにして、皆様にお伝えできるようにしたいと思っています。

来年、広島県福山市で世界バラ会議世界大会が開催されます。3年に1度開催されるバラに関する国際会議です。日本では2006年に大阪で開催されました。

福島部長は大阪大会のコンテストで金賞を受賞されました。福山大会のコンテストにも出品される予定ですので、それまでの仕立ての様子や展示花を見せて頂くのを楽しみにしています。

*熊本ばら会のLINE公式アカウントやFacebook熊本ばら会のグループへの登録もお待ちしております。熊本ばら会のお知らせや情報を発信しています。どちらも非公開ですので登録した会員以外は見ることができません。

LINE



Facebook



ばらだより 通巻259号 2024年10・11・12月号

発行 熊本ばら会

会長 前田 宜重

事務局 正村 正輝

会報担当 正村 正輝

問合せ用Eメールアドレス

info@kumamoto-rose-society.org

熊本ばら会ホームページ

<http://rose-society.life.coocan.jp/>

会員の部屋パスワード kuma562024